

勝連海域の磯根資源調査

—資源管理型漁業を前提とした予備調査—

金城 武光

1. 課題選定理由

勝連町は津堅島と浮原島を結ぶ海域を中心にかなり広大なリーフとなっており、シラヒゲウニ、シャコ貝等の好漁場となっている。これら磯根資源の漁獲量は年々減少しており、資源の枯渇が懸念される。そのため資源管理型漁業を前提とした基礎調査を実施し、漁業生産活動の安定を図る。

2. 活動内容

- ◎勝連漁協に水揚げされるシラヒゲウニ、シャコ貝の実態把握。
- ◎漁業者に対する資源管理型漁業の啓蒙
- ◎先進地視察

3. 年次到達目標

- *平成10年度
漁獲データの整理、実態調査
- *平成11年度
資源管理型漁業移行への検討
- *平成12年度
資源管理型漁業実施

平成10年度漁獲と実態調査

○シラヒゲウニ

漁場は津堅島の南～南東海域が主漁場で一部南浮原島北東海域を含むかなり広大な漁場である。経営体数は浜比嘉島23、津堅島2、平敷屋1の計26の複合経営体で7月～9月の3ヶ月間のみ漁獲を行っている。7月以前は申し合わせにより漁獲を自粛しているが反対意見もあり調整が難しい。又、9月後半からは歩留まり

が悪いため漁獲していない。漁獲量は平成6年7.0トン、平成7年12.6トン、平成8年16.3トン、と飛躍的にのびているが、平成9年から10.1トンに減少、平成10年は6.7トンで半分以下に減少している。漁業者からの聞き取りでも平成10年は、ウニの個体数が非常に少ないと言っている。

○シャコ貝

漁場はシラヒゲウニとほぼ同海域であるが生息水深がシラヒゲウニより深いため漁場は広いものと考えられる。経営体数は、浜18、比嘉4、平敷屋25の計47経営体数で、シラヒゲウニ同様他の漁業との複合経営となっている。漁獲は漁業調整規制により6月1日～8月31日が全面禁漁でヒメジャコ8cm以下、シャゴウ15cm以下、ヒレナシジャコ30cm以下が漁獲禁止となっている。平成5年に水産試験場八重山支場から入手、放流したヒメジャコが産卵群に加入したようで、放流地点域で稚貝の着定が目立つようになった。また、シャゴウも若干増えつつあり、加工用として利用できるため自主規制が必要である。勝連での水揚げは、ヒレジャコとヒメジャコが主で、シラナミ、ヒレナシジャコは、ほとんどみられない。

漁獲量は、平成6年7.7トン、平成7年5.0トン、平成8年5.5トン、平成9年3.6トン、平成10年4.0トンで5年間で約半分に減少している。

勝連海域のウニ・シャコガイ漁場図

鹿児島県立総合研究センター

水産資源調査部 水産資源調査課

